キラリ！輝く人たち

「野球を通して成長できた」

第98回全国高等学校野球選手権大会 ベスト8
中村（なかむら） 迅（じん）さん(17歳・常総学院高校3年・尾崎)

今年も高校球児の熱戦が繰り広げられた夏の甲子園。8月7日から開催された第98回全国高等学校野球選手権大会に茨城県代表として出場した常総学院高等学校(土浦市)の主将・中村迅さんは、名崎小学校・三和東中学校出身の遊撃手です。

10月の昼下がり、中村さんに甲子園出場までの苦労や思いなどをうかがいました。

地元・茨城の学校で勝負したい

父の影響で小学1年生から野球を始めた中村さん。小学時代は地元の名崎ヤンキース、中学時代は常総リトルシニアに所属。めきめきと実力をつけ、次第に甲子園でプレーすることが憧（あこが）れから目標に変わっていき「地元・茨城から全国を目指したい」と、迷わず常総学院の門を叩（たた）きました。

度重なる苦難を乗り越えて

全国屈指の強豪校の練習は想像以上に厳しいものでしたが、持ち前の明るさと負けん気で、無我夢中で練習に食らいつきました。試合でも結果を残しチームの柱に成長。2年生の秋には主将に抜擢（ばってき）されました。

強い決意で臨んだ茨城県大会。チームは準優勝し関東大会出場を決めたものの、中村さんは打撃成績が振るわず、主将の座を明け渡すことになりました。「とても悔しかったです。もっと練習しなければと思いました」と苦い経験を振り返ります。

野球人生最大の挫折を味わいましたが、「このままではいけない」と奮い立ち、一から鍛（きた）え直した中村さん。数えきれないほど素振りやノックを行い、誰（だれ）よりも声を出してチームを盛り上げました。その結果、チームの士気は高まり関東大会では準優勝。センバツ出場を果たし、中村さんは再び主将を任されました。

感謝の気持ちを胸に、これからも

センバツ出場の勢いをそのままに、甲子園に帰ってきた常総ナイン。「伸び伸びとやろう」「夏こそやってやろう」。頼もしい主将の一言で一致団結したチームは、並み居る強豪校を次々と撃破。中村さんも打点を挙げるなど、攻守にわたり気迫のこもったプレーでチームをベスト8に導きました。

甲子園での激闘を終えて2カ月あまり。「歓声一つで流れが変わる独特の雰囲気の中で、最高の仲間とプレーできたことは誇りです」と振り返る中村さん。「何より野球を通して人として成長できたことは、最大の財産です。家族や監督、チームメイトに感謝の気持ちでいっぱいです」と話してくれました。

今後はプロ野球選手を目指して大学でも野球を続けるという中村さん。将来が楽しみで仕方ありません。

キラリ！と光る中村さんの全力プレーは、多くの人に感動や勇気を与えました。中村選手、ますますの活躍を期待しています！